



発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700番地 国立療養所 **奄** 美 **和** 光 **園**

電話(0997)52-6311 FAX(0997)53-6230

平成29年11月1日 第





■表 紙1
■副園長就任挨拶2
■平成29年度敬老祝賀会3
■祝!! 敬老祝賀会4
■鹿児島県庁舎訪問・県内めぐり 5
■平成29年度県庁舎訪問・県内めぐりに参加して・・・ 6
■平成29年度親善ゲートボール大会7
■第33回親善ゲートボール大会に参加して・・・・・8

■焼き芋会・秋の作品展示会	9
■南大島バスレクリエーション1	0
■第29回ハンセン病コ・メディカル学術集会に参加して・・・11~1	
■園内保育園児によるハロウィーン仮装パレード・・・・・1	2
■ NST News Letter ······13~1	
■理解へのちいさな一歩、差別をなくす大きな一歩・・・・・1	5
■平成29年度診療統計······1	
■ 人 車 思 動 . 和 火 周 口 註 . 矩 隹 必 記	G

基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、 豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、 安全で安心できる医療を提供します。



笠利崎灯台

基本古

- 1. 入所者の終の棲家として心穏やかな暮らしを支えることを基本とします
- 2. 入所者自治会とよく話し合い 入所者本位の運営に努めます
- 3. 入所者一人ひとりの日々の変化にきめ細かく対応いたします
- 4. ハンセン病による後遺症や合併症の対策をしっかりと行います
- 5. 入所者が高齢化していることを念頭に置き 健康保持の活動や生活を支える医療 さらには感染予防·認知症対策に重点を置きます
- 6. 地域医療とも連携し 適切で標準的な医療の提供に努めます
- 7. ハンセン病に対する正しい知識を普及させるため 啓発活動に努めます
- 8. 開かれた療養所となることを目的に地域社会との交流促進に努めます
- 9. 入所者の健康と安全な生活に貢献できるようすべての職員の質の向上に努めます

99 副園長就任挨拶 ~~

副園長 馬場 まゆみ

清秋の候、皆様におかれま しては、ますます御健勝のこ

ととお喜び申し上げます。平素は格別の御高 配を賜り厚く御礼申し上げます。

このたび10月1日付をもちまして副園長に就任いたしましたので、ここに謹んで御報告申し上げます。これもひとえに皆様の日頃からの御支援の賜物と、心より感謝申し上げます。身にあまる重責ではありますが、40歳を迎えた節目の年にこのようなお話を頂いたことには何か意味があるのではないかと思います。微力ながらも、これまで同様和光園ならびに地域医療のため誠心誠意努力して参りたいと存じますので、何とぞ御指導御鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

さて、今までも私はいくつもの「顔」をもって職務をこなしてきました。「全入所者の皮膚メンテナンスと治療」「不自由者棟担当医」「NST*1委員長」「褥瘡委員長」「フットケア指導士」「日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士」「ICLS*2インストラクター」これらは和光園内の医療者の顔です。地域医療では「日本皮膚科学会認定専門医」の顔を持ち、平成28年度は1日平均47.7人の診療、1年で80検体以上の手術を行いました。

今回、「副園長」の顔が加わり、お祝いの言葉をいただくとともに、多くの方から「(今でも仕事が多いのに、さらに仕事が増えて)大丈夫ですか?」と心身へのお気遣いをいただきました。もともと小柄な体型ですが、忙しくなると食事を抜いてしまうので、もっと小さくなってしまいます。今までもしば気にかけていただいていますので、今回の副園長就任で皆さんがさらに心配されるのはもっともです。医者の不養生にならないよう、心身ともに自己管理を心掛けます。

さて、多くの方がご存じのように、私が和光園に医員として赴任した平成23年4月から、副園長は不在でした。平成27年6月に医員から医長へ昇任したときは、皮膚科医として10年以上経過しておりましたので、とくに驚きはなく、「部下のいないまま、医長として職務を全うしていくのだろう。」と漠然と考えておりました。7月のとある日、園長室に呼ばれた時も「夏休みか、当直の相談

かな?」程度に軽く考え訪室しました。すると 突然「副園長を引き受けてくれないだろうか?」 と言われ、まさに「青天の霹靂」で、「寝耳に 水」で、「瓢箪から駒」でした。さすがに園長 室にドッキリカメラを設置していないことはわ かっていますが、「え?」「は?」としか返事が できません(笑)。おそらく5分から10分かけ て説明を受けて、なんとか園長の意図を理解で きましたが、前任者としての副園長が不在です ので、業務内容が今一つイメージできませんで した。10月になり実際の業務も、会議が増え た、会議の席が下座から上座へ変わ

った、毎日決裁書が大量に届く、といったところで、まだ「副園長」の実感がないため、電話の応対でも「皮膚科の馬場です」の癖が抜けません。

少し話が飛びますが…

実は副園長就任のお話をいただいた時期と前後して、個人的には悩んでいたことがありました。

今年の夏、大人気の医療ドラマの新シリーズが放送されました。その新シリーズの第1回放送を見て、1番に抱いた感情は「悔しい」でした。救急の現場にいないことや、最新の薬で癌や難病を治療していないことを、医師として「悔しい」と思ったのです。これには自分も驚きました。奄美への移住という選択が正しかが、数日後、ふっ切れる瞬間が突然やってきました。偶然目にしたドラマのポスターに「道は違っても、思いは同じ。」の文字。そういえば、ドラマのなかで、自分の居る場所に迷いをみせる主人公に、同僚が「どこにいたって貴方は絶対命から逃げない」と言うのです…

和光園に赴任してから6年半の間に22名の 入所者を見送りました。1年365日、生活を支 え、「その人らしい生き方」を考え、最期の時 を予想しながら日々の診療を行ってきました。 救急や癌に関わった前任地での8年間よりも、 現在の方がはるかに命に向き合っていると自信 を持って言うことができます。そしてこれから も変わることなく。

思い返せば、赴任したときには前任の皮膚科 医が不在で、少しずつ診療スタイルを作ってき ました。新しい副園長も、少しずつ手探りで進 んでいきますので、皆さんで和やかな光を灯し て導いてください。よろしくお願いいたします。

*1 NST:栄養サポートチーム

*2 ICLS: Immediate Cardiac Life Support (突然の心停止に対するチーム蘇生)

平成29年度 微老祝賀会

9月14日13時30分、敬老祝賀会が開催されました。はじめに加納園長より「笑いは長寿の秘訣であり今日の敬老会を楽しんでいただきたい。そしていつまでも長生きしていただくようお守りしていく。」との挨拶があり、来賓代表として奄美市長(代読:奄美市保健福祉部長)より「我々が現在、安全安心の生活を送ることができるのもこれまで苦労されてきた諸先輩の努力の賜物であり、お一人おひとりが健康でこれまで以上に地域に愛情がもてるよう努力していきたい。」とのお言葉をいただきました。

式典は贈呈式に移り、奄美市長(代理:奄美市保健福祉部長)より敬老祝金、記念品の贈呈があり入所者代表としてS. Aさんが受け取られ、奄美市社会福祉協議会会長(代理:奄美市社会福祉協議会事務局長)より100歳以上の方への記念品がY. Sさんへ、総看護師長より意といたくさんの花束がS. Hさんへ開られました。贈呈を受けた3名の入所者のとは嬉しそうな柔らかい笑顔で応えて共ました。そして贈呈式の終了後、式典が進む中、招待出演者様より会場の奥まで響き渡る三味線と力強い島唄、そしただきました。

続いて余興の部に入り、入所者の方の 飛び入り参加も含めて4名の方にカラオ ケ出場をしていただきました。それぞれ

の方が個性あふれる持ち歌を上手に熱唱 されて会場からは、たくさんの拍手が沸 き起こりました。職員の余興の部では、 昨年も演じていただいた総看護師長室 「わいどな乙女 With 牛(ギュー)」が少 しバージョンアップして登場しました。 スコップ三味線を持ったモンペ姿の農夫 娘、金髪娘、あばれ牛の一団が、場内で 「ワイドー、ワイドー」と曲に合わせて 歌いながら駆け回り、観客全員が大いに 盛り上がりました。また、職員の「長生 き音頭でシャシャンとね」では、おじい さん、おばあさんに変装した職員が老い てもなお一段と元気になっていく姿を演 じました。テンポの良い歌と踊りで、観 覧している入所者の皆様に、たくさんの 活力を与えていただきました。

9月1日現在では、入所者平均年齢が 85歳となり高齢化が進んでおりますが、 入所者の皆様方が、これからもまだまだ ずっと元気で健やかに過ごしていただけ ることを職員一同心より願っております。

福祉室長 磯部 武嗣







入所者の皆様がお元気に敬老の日を迎え られたことを心よりお祝い申し上げます。

治療棟では、敬老会を盛り上げようとス タッフ全員で臨みました。演題は「稲すり 節」。踊りを練習する時間が少なく、余興 担当の一人が間違えると全員が間違ってし まう状況でどうなるかと思いながら、本番 を迎えました。しかし、予想に反して入所 者の反応はよく、一緒に口ずさんだり、 踊ったりしていました。入所者と職員が 楽しい時間を共有できるように、来年は 練習して自信をもって本番に臨めるよう にしていきたいと思います。

治療棟看護師長 赤崎 由紀子

病棟からは、入所者5名の参加がありま した。式典では、園で最高齢になられるY さんが代表で記念品を受けとられ、多くの 方からのお祝いの言葉に大変喜ばれていま した。また、Hさんは余興をみて、手をあ げながら声を出して笑っており、普段見ら れない表情をみせてくれました。徳之島出 身のMさんは、普段は足の痛みを訴えるこ とが多く笑顔も少ないのですが、「ワイド 節」を一緒に口ずさんで歌い、「ワイド節 が良かった。行って良かった。」と喜ばれ、

踊りや歌を観ることで痛みが紛れている ようでした。

病棟スタッフによる余興では、日々精 進(笑)していた踊りの成果を楽しんで頂 けたようで、今後は次回に向けてパワー アップしていきたいと思います。たくさ んの笑顔と笑い声に包まれた敬老祝賀会 を来年も皆さまと迎えられますよう願っ ております。

> 病棟看護師 篤 朝子

敬老の日おめでとうございます。

私は入所者の傍で職員の余興をとても楽 しく見ていました。入所者の方々の笑顔に いつも元気と心が温かくなるひと時をいた だいており、今回の祝賀会でも一緒に笑っ たり、踊ったりと楽しい時間を過ごすこと ができました。

敬老の日を皆様方と一緒に迎えられた事



に感謝し、皆様が安心して生活できるよ うに一生懸命がんばりたいと思います。 これからも皆様が健やかで穏やかな毎日 をお過ごしいただけますよう心から願っ ております。

不自由者棟看護師 則岡 静香



鹿児島県庁舎訪問・県内めぐり



10月16日8:00、入所者(不自由者棟) 2名と職員4名で和光園を出発して、奄美 空港を経て鹿児島空港へ向かいました。今 年は北薩方面を巡るため、霧島連峰の秋の 紅葉を味わうのが旅の楽しみの1つです。 鹿児島空港へ降り立つと、駐車場には熊本 ご当地キャラクター「くまもん」柄がびっ しりと描かれたバスでお出迎えがあり、み なさん大喜びでした。

最初の目的地である神話の里公園に向かい、昼食を済ませてからコスモス畑で有名な生駒高原に移動しました。あいにく小雨が降り続いているため、バスから降りて遠くへは行けませんでしたが、それでもたくさんのコスモスが眼前に広がり秋の季節を十分感じることができました。その後バスに乗車し、新燃岳噴火の影響のため、ルートを迂回しながら宿泊ホテルに到着しました。

夜の懇親会では各施設の入所者の方が一同に集まりそれぞれ代表者がカラオケで自慢の歌を披露しました。和光園は地元の特徴を生かした「島のブルース」を選曲し、2名の入所者の方が歌を、そして職員の踊りによるコラボレーションで、会場からはたくさんの拍手喝采が沸き起こりました。

2日目の早朝、霧島神宮にバスで向かいましたが、この日も小雨が降り続いていた

ので、境内の参拝所までは行かずに手前で留まりバスの中で休憩することにしました。それでも境内での荘厳な空気を感じることが出来たので、気持ちを一新して清々しい気分になれました。そしてバス一行は、霧島神宮を出発してから奄美の里で昼食を終えて、最終目的地である県庁舎へ向いました。

鹿児島県知事、鹿児島県職員の皆様との対談は、県庁舎の会議室で報道陣に囲まれながら行われました。緊張した場面の中、K. I さんが和光園代表として歓待へのお礼の言葉を述べられました。K. I さんの話ぶりがとても落ち着きはらって堂々としており、その姿に感動させられました。対談の後は、県庁舎1階のロビーで全員の記念撮影が行われ、そこでお別れとなりました。

1泊2日の旅はなかなか天気に恵まれませんでしたが、秋の風情を感じながら充実した心に残る思い出とすることが出来ました。

文末となりましたが、当旅程での企画 調整、バス乗降時の車いす介助のご支援 等、鹿児島県職員の皆様にはいろいろと ご協力いただきました。この場をお借り しまして、厚く御礼申し上げます。

福祉室長 磯部 武嗣



平成29年度 県庁舎訪問・県内めぐりに参加して

和光園で働き始めて半年の私に県庁舎訪問・県内めぐりの付添いの役が回ってきました。今年は10月16日、17日の日程で霧島方面です。楽しみにしていた入所者2人とスタッフ4名の計6名、準備を整えいざ出発!奄美空港で木製の素敵な車椅子に乗り換え、リフトで乗り込むところから初めてがいっぱいでドキドキでした。

さて、その頃の霧島は新燃岳が噴煙をあげ入場規制で通れない道があったり、雨のコスモス畑は入所者の車椅子1台に傘を差しだす県職員ら4人という大所帯になったり賑やかな道中で、雨天だからこそ楽しみのお土産選びもゆっくり出来ました。宴会では前職の揚松副園長や多摩在住の懐かしの友人との再会があり、入所者2人は終始笑顔で食事やカラオケを楽しみました。

2日目は県庁での挨拶という大役がK さんにあたり、「緊張してのぼせたー」 と言われていましたが、とても綺麗な声 で「このような素敵な旅行の機会を与え て下さり感謝しています」としっかり述 べていました。 桜島こそ噴煙で見えませ んでしたが、その分車窓から西郷像をな がめるコースに変わり、「コスモス畑と 西郷像が初めて見たのでとても良かった」 とHさんが帰園後嬉しそうに話している のを見て、ヘトヘトだった私の疲れはすっ かり吹き飛びました。そうそう私の1番 の思い出は、Hさんの隣のベッドで寝た ことです。初めての経験を与えて下さり ありがとうございました。

最後に、この県庁舎訪問は鹿児島県が 毎年開催する「故郷を離れることを余儀 なくされた方々の為の帰郷の機会」でも あり、他園の方々の挨拶で、これまでの 苦しみや経験談を初めて目の当たりに聞 き、私は胸を強く打たれ療養所で働く意 味を考える機会となりました。今回、開 催・ご協力頂きました県職員の方々に深 くお礼を申し上げますと共に、来年度も 入所者の方がお元気で参加されることを 願っております。

不自由者棟看護師 光村 真弓







平成29年度 親善ゲートボール大会

10月14日(土) 8:30、朝から時折降ってくる雨を避けるため、コート横に建てたテントに入りながら、親善ゲートボール大会が開催されました。冒頭の挨拶で加納園長より「親善ゲートボール大会が入所者にとって、地域共生の実感できる有意義な活動の場である。」との話しがあり、昨年優勝した喜界チームより優勝旗の返還を受けて開会式が進行しました。

今年も昨年同様に16チームの参加で1コートにA、Bブロック、2コートにC、Dブロックよるブロック単位での対抗戦で行いました。和光園はA、B2チームが出場しAチームには入所者のT.Nさんを筆頭に残る職員選抜チーム(1軍)、Bチームには元入所者のH.Yさんを筆頭に職員准選抜チーム(2軍)で編成しました。和光園2チームは同一ブロックの組み合わせのため、10試合目に対戦することになりました。

和光園Aチーム(1軍)はさすがに選抜されただけあり、選手全員がスムーズに第1ゲート、第2ゲートと簡単に通過していく中、和光園Bチームは第1ゲートの通過も四苦八苦状態で、圧倒的な点差(21-5)で和光園Aチームが勝利した。私自身も和光園Bチームの選手として参加させていただきました。和光園とであり、少して固くなったせいか、なかなりでもあり、少して固くなったせいか、なかなりでもが通過出来ず失敗し、まるとのとう第1ゲートが通過出来ず失敗した。そしてとうとう第1ゲートを通過とした。そしてとうとう第1ゲートを通過とした。

全試合終了して結果は宇検村の芦検チームが総合優勝を飾りました。そして和 光園AチームもBブロック内で優勝と大 健闘いたしました。試合で結果が思うよ うに出せなかったチームも自身それぞれ が頑張った成果は何かしらあったと思っ ております。

当大会は雨が降ったり止んだりで試合を途中に中断したりしながら行いましたが、試合終了後には、楽しい有意義な1日であったと感じられました。

そして最後となりますが、当大会が参加されました地域の皆様のご協力のもと、無事に終えることができましたことをこの場をお借りしまして、厚く御礼申し上げます。

福祉室長 磯部 武嗣





第33回 親善ゲートボール大会に参加して

10月14日、園外から14チームが参加して親善ゲートボール大会が開催されました。 ここからは、参加した和光園Bチーム: 看護課一人ひとりのコメントです。誰のコメントか想像しながら読んでくださいね。

T田総看護師長:時折激しく降る雨に、一次中断はありましたが最後まで試合が行われ、楽しい一日となりました。地域の強豪チームの戦略に巻き込まれ、初心者の多い和光園Bチームは第1ゲートを通過するのがやっとという感じでした。目を見張るような好プレイや驚くような珍プレイが続出し、会場は大きな拍手や笑い声につつまれました。

A崎看護師長:人がやっているのを見ていると簡単そうに見えましたが、実際やってみると職員から「ボールだけを見いい」とのアドバイスをもらいい」とのアドバイスをもらいできましたがら数回で通過することができました。ルールがわからず、足を離さてきるとはよりであるとないましたが、ゲートながらないましたが、ゲートながらしまれている様子を見て親睦に繋がてしまれている様子を見て親睦に繋いると感じ、微笑ましくも思いました。

T中看護師長:2試合に出場しました。2 試合目はなかなか第1ゲートを通過する 事ができずに焦りましたが、何とか第2 ゲートまで行くことができました。来年 は練習して一打で第1ゲートを通過でき るように頑張りたいと思います。

N濱看護師長:昨年はビギナーズラックで 3ゲートまで到達し、今年もゲートボー ル大会を楽しみにしていました。初めは 力が入りすぎてゲート通過できず、5回 目で1ゲート通過することができました。昨年までゲートボールに参加していた入所者が応援に来てくださり、

「今年は参加できなかったけれど、来年はぜひ参加したい。これから、リハビリ頑張るよ。」と笑顔で話され、打ち方のアドバイスをしてくださいました。来年は一緒にゲートボール大会に参加できるよう頑張りたいと思います。

G藤副総看護師長:今年で二度目の参加 でした。念入りに?スティックを選ん だのですが、会も中盤に差し掛かった 頃のまさかの空振り・・。道具に頼ら ず練習あるのみ!を痛感した瞬間でし た。案の定、第1ゲートを通過するの に時間がかかり、通過したかと思えば 力加減を考えず、ボールは無情にも場 外へと飛んでいきました。優勝旗には 到底手も届きませんが、会場内の笑い だけはとれたと確信しております。チ ーム代表のSさん、未熟な私たちを導 いてくださりありがとうございました。 地域の方々との交流を深め、親睦を図 ることを目的とした歴史あるこの大会 が、これからも永く続きますことを願 います。

和光園 Bチーム:看護課



M 焼き芋会・秋の作品展示会業

食欲の秋、スポーツの秋、芸術の秋、 今年も秋の季節になりました。サービス 委員会では毎年入所者に秋の訪れを感じ てもらえるような行事を企画しています。 今年は少し志向を変えて静かな芸術の秋 に着目し企画しました。日頃、入所者を に着けれた力作揃いの展示品を外 に入びもらえるように設営を考え、外 しんでもらえるように設営を考え、外 したでもらえるように設営を考え、外 したでもらえるように設営を考え、外 は食欲の秋にふさわしい焼き芋を職 はなて準備しました。窓を開けいいるの?」 と香りに誘われるように入所者は庭に がするね。何?」「どこで焼いているの?」 と香りに誘われるように入所者は庭に出 て、焼き芋を焼いている職員の様子を笑 額で眺めていました。

芋が焼きあがるまで食欲を抑え展示品

を鑑賞し、入所者が演奏する琴の音を聴き、「琴はご自分で作られた物です。一番難しかったのは音の調整だったそうです。」と職員が説明すると、「オオーすごい。」「自分で作ったの。すごいね。」などの驚きの声が上がりました。演奏した本人は、「あまり上手く弾けなかった。でも次は上手く弾くよ」と笑顔で応える姿がありました。その後、全員で秋の頃を歌い、職員が島のブルースを踊り終えるとようやく焼き芋も出来上がり、お待ちかねの食欲を満たす時間となりました。芋を食べながら会話も弾み楽しい秋のひと時を過ごすことが出来ました。

サービス委員 久永 あや子

作品を観てくださった方々、またお褒めいただいた方々へありがとうございます。皆で頑張って作った作品達、観て下さった事で大喜びだと思います。これらの作品は入所者一人一人の思いがつまった作品です。「これまたやるの!」と言いながらも最後まで続けた方、初めは作業が上手く出来るか不安で気持ちがドキドキで手が動かなかった方、「間に合わないらきたよ。」と作業療法時間外でも気になって来られる方・・・・。とても嬉しく思います。また、たくさんの作品達

MILTER THE TOTAL T

の用意に励みたいと思います。応援して 下さる方、集まれ~。

作業療法士 中川 恭兵







台風21号も過ぎ去り、奄美も少し寒さを感じ始めた10月26日、曇り空の中、一般舎2名、不自由者棟4名の入所者と職員8名の計14名で、和光園を朝9時に出発して目的地である南大島の西古見へ向かいました。

園を出発して、途中お弁当を買って、右に山羊島、名瀬港を見ながら住用の山々を進んで行き休憩のためマングローブパークに寄りました。バスから外に出ると小雨が降り出し、天気が回復しないのでは?と不安な気持ちの中マングローブパークを出発しました。しかし、そんな不安な気持ちを振り払うかのように、篠川を通る時には雲をかき分け太陽の光が差し込んできました。緑の山々に囲まれた篠川湾の波がきらきらと反射する見事な景色に、入所者、職員一同魅了されました。

一行を乗せたバスは久慈湾を通り、山々の景色、そして広大な湾内で泳いでいる魚も見ることができ、私たちを歓迎するかのような景色に包まれました。

久慈に到着した時には晴天になり、波 も穏やかで心地良い風が吹いてきました。 高倉の横にブルーシートを敷きテーブル をセッティングして、久慈湾と山々の景 色を楽しみながら皆でお弁当を食べまし た。食後の団欒を終え、久慈を出発し西 古見の展望台に向かいました。展望台か らは、ハンミャ島、須子茂離(すこもば なれ)、江仁屋離 (えにやばなれ)、夕離 (ゆうばなれ)、徳之島も見渡すことがで き、みな大歓喜でした。途中心配してい た天候にも恵まれ季節を感じることが出 来、和光園に到着すると入所者から、 「天気も良かったし、今日は最高だった。 楽しかった。」との言葉が聞かれました。 入所者と職員が同じ「時」を楽しめた実 りある一日に感謝します。

治療棟看護師 金井 瞳





第29回 ハンセン病 コ・メディカル学術集会に参加して

台風22号の影響がある中、第29回ハン セン病コ・メディカル学術集会が10月27 日、28日の日程で、鹿児島県で開催され ました。口演、ポスターセッション合わせ て52演題あり、全国13園から約190名の 参加者で会場は埋め尽くされていました。 和光園からは看護1題、介護2題の合計3 題の発表がありました。私も「ハンセン病 療養所における熟練看護師の暗黙知」をテ ーマに発表し、「熟練看護師の知識の伝承 をどのように行うのですか」との質疑に対 し、「看護を語る会を開催し、熟練看護師 の経験や入所者への思いを学ぶ機会として いる」と説明しました。発表後、参加者か ら「熟練看護師の思いや小さな変化に気付 くことはとても大切なことだと思う。いい 研究発表でした」との言葉を頂き、とても うれしく思いました。

国立療養所星塚敬愛園の名誉園長である 今泉正臣先生の特別講演では、ハンセン病 は完治し、ハンセン病療養所は一般生活を 最後まで支えることが大切であることを情 熱的に話されていました。午後の福祉施設 と同じであり、入所者の日常は長崎県立大 と。来年もこの 学会に参加し、 ついでに温泉も 堪能したいなぁ と思いました。

病棟師長 西濱 るみ子



私は、昨年治療棟で研究した「夫婦で暮らす入所者の今後の生活に対する思いを知る」をテーマに発表しました。教育講演の中で、ハンセン病入所者の思いを語ることが大切だと聞き、自分たちが研究した内容と重なり、研究してよかったと思いました。学会では、エンドオブライフケアのテーマで、入所者の終末期に対する想いを知ら発表があり、認知症ケアのテーマでは、地りよるにアンケートによる聞き取りを行ったよる間き取りを行ったよりましたが、認知症ケアのテーマでは、よりよいを入所者の背景を深く知る事で、よりよいを対したが、当園だけでなく13園すべての入

所者の高齢化やADL低下が急速に進み、 看護・介護で悩む場面が増えているのだ と改めて感じました。今回参加できた経

験を、職場で活かし、入所者へ安心・安全な介護を提供していきたいと思います。

病棟介護員 黒木 貴雄



私達は、1日目の口演発表で「不自由 者棟入所者が望むレクリエーションのあ り方」というテーマで発表しました。大 人数の前での発表はとても緊張しました が、会場に今まで一緒に研究を取り組ん できたメンバーや和光園の方々がいたこ とで、とても心強く無事に発表を終える ことが出来ました。2日目の午後は星塚 敬愛園の施設見学に不自由者棟の介護員 3名で参加しました。37万㎡(ヤフー ドーム2.2倍)の広い敷地に一般舎・ 不自由者棟・認知症棟などがありました。 資料館では、親と子供が月に一度だけ面 会できる日があり、必ず消毒を行い面会 していた話を聞いて、胸が締め付けられ るような気持ちになりました。また、ハ ンセン病の悲しい歴史がどの施設でもあ る事を改めて知りました。

今回このような貴重な経験をさせて頂き、 また発表に至るまでご指導・ご協力をいた だき感謝申し上げます。この経験を今後の ケアへ繋げていきたいと思います。

不自由者棟介護員 川畑たまみ下川 満徳 和代



園内保育園児によるハロウィーン仮装パレード



現代では、特にアメリカ合衆国の民間行事として定着しているハロウィーンですが、近年、日本においてもこの行事が市民権を得て来ているようです。当園の園内保育園でも数年前から、園児によるハロウィーン仮装パレードを行っており、今年も例年通り10月31日(火)午前10時30分から仮装パレードを行いました。

まず保育園で、園児6名が思い思いのお 化けの衣装に着替えてスタートしました。 外来管理治療棟の正面玄関、病棟玄関、不 自由者棟を回り「トリック・オア・トリー ト(Trick or treat「お菓子をくれないと





悪戯をするよ」)」と唱えたあと、「どんぐりころころ」、「大きな栗の木の下で」、「とっつぶる」等の歌を披露し、入所者及び職員から盛大に迎えられ、たくさんのお菓子を貰いました。入所者、職員の皆さんに喜んでもらい、お菓子もたくさん貰えて、子ども達も楽しんでくれて本当にハッピーなハロウィーンでした。

この場を借りまして、行事の企画やお 世話をして下さった保育士の方や歓迎してくださった入所者、職員の皆さん、そして何より子ども達にお礼を申し上げます。

あまみ保育園 園長 岩辻 好夫

NST News Letter

No.3

皆様おいしく食事を楽しまれているでしょうか。今回は食事の中の『姿勢』についてお話をさせて頂きます。

食事の姿勢といえば何を思い浮かべますか。だらしない格好で食べていませんか。しっかりと背筋を伸ばし、足を地面につけて食べているでしょうか。"食"といるでしょうか。"食"と日に繰り返される生活行為の一つであるため、毎日に繰り返される生活行為のの衰えが出現することが出現しながら、痛みや病気を抱えることで、それに伴い食事をかおいしく食べられなくなったりするものです。そこで、考えていかなければならない事は、いつまでもおいしく食事を食べるための方法です。

ちなみに、あなたは椅子座位で食事をする時の好ましいテーブルの高さはどのくらいかご存知でしょうか。

一般的にはこのような目安をだす数式が 利用されています。

・差尺【座高(身長×55%)

 $\times 1/3 - 2$ 】 +下腿長

- ※例として身長171cm、下腿長36cmの私自身の数値で表すとこのようになります。
- ・【94 (171cm×55%)×1/3-2】 =29 (差尺の値) + 36 (下腿長の値)

ゆえに 65 cm の高 さのテーブルが適 当である。

(椅子座位では足底がしつかり地面に接地されており、膝関節は90°程度曲がっている事を前提とし、右記の



図を参考にして下さい。もし理解が難 しい場合は中川まで、また遠方の方は 専門家へお尋ね下さい。)

この数式にあわせることで、ある程度 の方はテーブルの適度な高さを実感し理 解する事ができるかもしれません。しか しながら、現実問題としてこれだけでは 解決されないことがおおくあるかと思い ます。それは生活環境的な問題によるも ので、適度なテーブルがない事やこだわ りを持ったテーブル等を利用されている 方もいらっしゃるでしょう。このように その人が困っている、また抱えている問 題と環境は多種多様であり、万人に適し た方法というものが必ずしも解決策にな るというものではありません。そうなる と多種多様なケースを一つずつ例に挙げ ながらいくべきかもしれませんが、それ では文章が長くなってしまいますので、 今回は一つに絞って、皆様に思い出して ほしい姿勢のポイントを伝えます。

"姿勢"という言葉には、2つの意味 があります。一つ目は前述のように体の かまえ、かっこうです。そして、もう一 つが心構えです。この2つめの姿勢が私 にとって本当に一番大切なものなのでは ないかと感じています。今では日本はと ても裕福となり、昔と比べ、満足いくよ うに白米やおかずを食べられる事ができ るようになりました。その食事を1日3 回と計算すると、1年で1,095回、人生 80年とするならば87,600回となります。 いつの間にか食べられる事が当たり前と なり、この数字を見て、あとこんなに食 べなきゃならないのかと思う方もいらっ しゃるかもしれません。私自身、食べた くないのに時間に合わせてお口に運ぶ作 業と化すときも度々あります。そこで、

このような悩みをお持ちの方や、なんだか 食事がおいしく感じられなくなったという 方に改めて食事の姿勢を見直してほしいと 願います。

当たり前に過ぎている食事の背景には、 時間をかけて作られた食材という大地の恵、 作ってくれた人の思いやその調理過程、一 緒に食事時間を共にしていく家族や仲間、 様々な感謝の心を持つきっかけがたくさん あります。また「おいしい・まずい」など も食事にはありますが、それも"感情"で あり、生きているという事を証明してくれ ているのです。しかし、毎日のように感謝 を持ち続けることは難しく、気持ちには形 がないため、ふと忘れてしまう事がありま すよね。そこで、私からの提案なのですが、 気持ちを形にする方法がある事を教えます。 それは気持ちを言葉に変えて毎日、繰り返 すという作業をしてみてはいかがでしょう か。食事前に「さぁおいしくいただきます」 と言葉にするのです。自分なりの言葉で、 どんな言葉でもかまいません。自分の口か ら自分の耳に唱えてみるのです。もし言い たくない時は事前に文字にしておき、眺め るだけでもいいでしょう。

良くも悪くも人間は忘れる生き物です。そのおかげか、人間の気持ちというものは常に変化するものであり、嫌いな食べ物がいつの間にか食べられるようになったり、また逆に好きだった食べ物が喜べなくなったりします。何を伝えたいのかと申しますと、変わりゆく心をどのかいように人生の中で理解し、楽しみ続けていように人生の中で理解し、楽しみ続けているです。こうした眼には見えない気持ちを理解するために、自分自身の気持ちを言葉や形にすることは有効なものであると私は感じています。

そして、この文章を読んだ事を良い機会にして頂き、食事をよりおいしく食べる方法を共に考えて頂けると幸いです。皆様がより長く、食べられる喜びを感じながら、安全においしく、いつまでも食事を楽しんでいただけるよう支援していきたいです。

作業療法士 中川 恭兵



親子療養所訪問より

理解へのちいさな一歩、 差別をなくす大きな一歩

鹿児島県立大島高校2年生 中山 莉李

みなさんは、私のふるさと、奄美大島のことで何か知っていることはありますか?ハブ?黒ウサギ?鶏飯?それとも碧い海?それよりも私が皆さんに知ってほしい場所があります。それは、奄美和光園です。

奄美和光園は、元ハンセン病患者が生活 する療養所です。みなさんは、ハンセン病 という病名を聞いたことがありますか。 シセン病とは、癩菌という細菌によるることがある 症ですが、感染したとしても発病する切った。 はきわめて稀で、早期に発見してものでは 療をすれば治る病気です。しかっ病患者 はました。ひとたび、療養所に入出らたり をしました。また、患者達はおかったとに を産した。また、とを許されなだことに もいてしまった人もいました。

先月、私は和光園を訪問する機会があり ました。そこで、入居者が生活する居住地 を見学したり、生涯をその療養所で過ごし 亡くなっていった沢山の人々の遺骨が納め られている納骨堂もお参りしました。その 後、19歳の時、他の奄美群島から療養所 に強制収容された高齢の女性の話も聞きま した。私は、彼女を最初に見た時、指に残 った後遺症を手袋して隠している以外は、 普通のおばあちゃんと何も変わらないと思 いました。彼女は、寂しい時には読書や編 み物を生きがいにしていたこと、そしてい つも家族に会いたいと願っていたことなど を話してくれた後、私を見て、そっと微笑 みかけてくれました。私はその時、なぜこ んなにも人懐っこくて優しい人が、狭い環 境で生活を強いられなければならなかった のか、なぜハンセン病患者の人たちは自由 に生きる権利を奪われなければならなかっ たのか、なぜ何も悪くない人々が偏見の目 を持たれなければならなかったのか、とい う憤りを感じました。

世界には、様々な人権問題があります。

私はそれらの問題に触れる度に、自分とは関係ない、遠いところで起こっている問題だと思っていました。しかし、自らのアイデンティティを失わされ、偏見と差別を受けながら生活しなければならなかったことに改めて気づいた時、自分はなんて、無知で無関心であったかに気付かされました。

差別はいけない、ということは誰もが 知っていることです。しかし、ではなぜ 差別はなくならないのでしょうか。おそ らく、ただ差別をしてはいけないという 認識を先に教えられ、そのことを深く考 えたり差別を受ける人々に寄り添おうと することがないからではないでしょうか。 私がお話しした高齢者の女性は「地域の 人々とたくさん交流したい」と話してい ました。彼女は、ごく普通の人としての 生活や生き方を求めていました。彼女の 笑顔は、私に人権を尊重することとは何 かを教えてくれました。元ハンセン病患 者の人々は、人権運動を起こすことで、 自分らしく生きようとしてきました。私 たちは、彼らの力強く生きる姿に共感し 共に生きようとすることで、心の中にあ る差別意識をなくしていけるのではない でしょうか。

かつて、南アフリカ共和国の元大統領ネルソンマンデラ氏は、すべての人間が平等であると信じ、差別をうけたアフリカ人を守ろうと決心し立ち上がりましてきないたちは、彼のように大きなことは目をしたが、現実からに大きないがあったのできると離れず、どのような差別があったのできると知らいです。無知と無視が一番残酷ないたという現実を知ってください。くいはで、その行動が差別をなくす小さくいようなとなったとなると強く信じています。

平成29年度 診療統計

	外来診療					特記		入院診療		
	初診(人)	再診(人)	合計(人)	1日平均 (人)	診療実日数 (日)	紫外線療法 (件)	手術/生検 (件)	入院(人)	退院(人)	延患者数 (人)
9月	247	346	593	49.4	12	82	5	1	1	8
10月	230	365	595	45.8	13	98	5	0	0	0
合計	477	711	1188	47.5	25	180	10	1	1	8

*皮膚悪性腫瘍切除術内訳

脂腺癌 1件

*入院内訳

9月:65歳男性

3月末から病棟入所者の看護度が上がっているため、現在、皮膚科入院診療を 制限している。

人事異動

(平成29年9月1日~平成29年10月31日)

H29. 9.30 松永 葵 看護師 臨時的任用退職

H29. 10. 1 馬場 まゆみ 副園長 皮膚科医長から昇任

H29. 10. 22 仲田 ノリ江 看護師 非常勤採用

H 2 9. 9.14 敬老祝賀会

10.12 焼き芋会

10.14 親善ゲートボール大会

10.16 県庁訪問(~10/17)







奄美大島にきて2度目の秋を迎え、毎年楽しみ にしている行事があります。

約80台のバイクが集まる「チャリティーツー

リング・ツールド奄美」です。厳しい暑さも落ち着きをみせ、バイクに乗るには 最適な季節を迎えた11月上旬に行われる行事です。

様々なバイクと出会えるのも楽しみの一つですが、何より楽しみなことは奄美の自然の中を颯爽と走り抜けること。古仁屋港から宇検、大和村と海岸沿いを走るのは爽快感もさることながら改めて奄美の自然の素晴らしさを感じることができました。

これから季節はどんどん寒くなっていきますが移り行く自然を感じながら2度 目の冬も楽しみたいと思うのでした。

庶務係長 佐藤 剛